

## トリウム炉の現状

東日本大震災の直後から、私はトリウム熔融塩炉の「㈱トリウムティックソリューション」(TTS)を支援しています。この夏、TTSは経済産業省から、「革新的な原子力技術開発支援事業」として採択されました。

今の日本人は原発廃炉に傾いています。しかし、日本のエネルギー資源はほとんど海外からの輸入ですから、国内に自主的なエネルギー源を持つことは必至です。また、地球温暖化を防ぐには原発の必要性に人々は気づき始め、先進国では一致しています。

トリウム炉には次の特色があります。

①プルトニウムを消滅させて核拡散を防ぐ。②冷却水を使わないので停電による炉心熔融や水蒸気爆発はない。③安全小型炉であるから市街地に建設してガスと同じ公共施設になる。④臨界事故が起きれば燃料は地下タンクに流れて核反応が止る。⑤送電線が減少する。⑥電気料金は3～4円/kwhという低コスト。⑦トリウム資源は世界中に分布する。

今、世界はトリウム原子炉の実現に向かっていきます。中国は十年前から国家事業として開発が進み、米国ではスリーマイル事故から原子炉を造らないという政策でしたが、最近ではベンチャー企業を支援しています。

日本では三十五年前に古川和男先生が「トリウム熔融塩炉FUJI」を設計。弟の古川雅章社長がその技術を継承。原発アレルギーの日本ではなかなか理解が得られないために、まずはカザフスタン国立核物理研究所と提携、調印済み。実験開始のために一億円の資金が必要です。

安全な原子炉を願う古川和男先生は、東日本大震災直後に「この原発ならば福島もチェルノブイリも起きなかった」という『原発安全革命』(文藝春秋新書)を緊急再版、この年に逝去、遺書になってしまいました。私はこの本で新しい原子炉に目が覚めました。

このたび、TTSは日本のエネルギー問題に貢献できると、経済産業省に認められました。さらに、国民にトリウム炉の理解が深まれば、国家予算で建設されるでしょう。これからは皆さまの声が求められます。新しい原子炉FUJIについて知りたい方はご連絡ください。詳しい資料を差しあげます。

著者 白象の会/監修 近藤堯寛『空海散歩』全十巻

空海の名言をやさしく読み解くことができます。

第一巻「苦のすがた」・第二巻「世のながれ」

第三巻「たすけあい」・第四巻「こころをつくる」

定価 2,300円+税(第二巻のみ2,200円+税)

申込先/金龍寺・書店・筑摩書房

今後の刊行予定(令和五年に完結)

「法を伝える・さとの記述・さとの風景・これが真言密教・仏のはたらき・大日の光」